



社会福祉法人福岡市社会福祉協議会

早良区社協事務所 (早良区社会福祉協議会)

福岡市早良区百道1-1-1 UMIBE BLD.1階

TEL:092-832-7383 FAX:092-832-7382

Eメール:sawaraku@fukuoka-shakyo.or.jp

福岡市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
ここと

障がいのある「僕」と里親との暮らし ～研修講座で発達障がいと里親制度^(※)について学びました～

飯倉校区社協では、毎年住民向けに研修講座を実施しています。令和6年度は障がいや子どもについて学びたいという思いから、南福岡特別支援学校高等部2年の小島瞬さんと小島さんの里親の北里聖子さんを講師として呼びました。

初めに小島さんからこれまでの生き立ちや今の生活のことをお話いただきました。4歳のときに里子であると真実告知を受け、小学校高学年の時期には、そのことについて複雑な感情を抱いたようですが、出産自体が大変なことだと気づき、今は生んでくれたことに感謝されているそうです。

また、日常生活の工夫についてもお話いただきました。字を読むことが苦手なため、授業中の板書はタブレットで撮影して学習しているそうです。字の見え方や音の聞こえ方などわかりやすく説明していただき、小島さんの世界を知ることができました。講座の最後には「大学で心理学を学んで人助けをしたい」と将来の夢を笑顔で語ってくださいました。



▲北里氏(左)、小島氏(右)

続いて北里さんから小島さんとの出会い、今育てている里子たちの育児記録についてお話いただきました。里親歴17年で一緒に暮らした里子は20名ほどになります。一人一人の特性に合わせた接し方を考えながら子育てをされているそうです。

講座には小中学生や子育て世代、校区外の方など、これまでの講座では参加がなかった方も含めて70名の参加があり、関心の高さがうかがえました。「子どもが悩んでいるときに親としてどうしたらいいか」という質問には、「いじめられ悩んだときもあったが、家に帰れば家族がいたので安心できた。待っていてくれるだけでいいと思う」と小島さんご自身の体験も交えて回答されていました。

地域には、誰にも相談できない、相談先がわからない子どもやその親が身近におられるかもしれません。飯倉校区では、このような取組みを通じて、校区一丸となって子どもたちを守り育てていきます。

(※)里親制度とは

里親制度は、何らかの事情により家庭での養育が困難又は受けられなくなった子ども等に、温かい愛情と正しい理解を持った家庭環境の下での養育を提供する制度です。

子ども食堂「大原すまいるキッチン」

～子どもたちへの想いを形にして4年目～

大原校区では毎月第1・3・5水曜日の夕方に公民館で子ども食堂を開催しています。メインのメニューはカレーライスです。午後4時半になると、小学生が友達やきょうだいと一緒に続々とやってきて、30分もすると、会場にはカレーライスをほおぼっている子どもたちのにぎやかな声があふれています。

令和6年8月に4年目を迎える子ども食堂の利用者は年々増え、150名を超える日もありますが、約15名のボランティアスタッフは現場責任者の中村シキミさんの指揮のもと、受付、調理、配膳等、皆が自分の持ち場で手際よく準備を進めています。

中村さんは「コロナ禍で子どもたちの行き場がなくなったことをきっかけに始めました。始めたからには10年は続けたいと思っています。長く続けるコツは細かいことにこだわりすぎず、誰もが無理せずゆるやかに続けることです。スタッフも高齢なので、自分のリハビリのつもりで参加している方もいらっしゃいます」と話されます。



「大原すまいるキッチン」は、福岡市が推進する「福岡100」(*)の取り組みのひとつでもある「福岡シェアダイニング」の登録もしており、子どもだけでなく、子ども連れの家族や高齢者の方等、多世代交流の場となっています。

食事の後、子どもたちのためにオカリナの演奏をして帰る方、ボランティア活動に参加したいと隣の校区から参加する高校生等、食事に来る子どもたちだけでなく、そこへ集うすべての人の居場所をつくり、暖かく包む「大原すまいるキッチン」です。

(*)福岡100とは…

人生100年時代の到来を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく活躍できる、持続可能な社会をめざし、産学官民オール福岡で取り組むプロジェクト。

誰もが安心して暮らせるまちを目指して

～ふれあいネットワークの基本を再確認しました～

高取校区社協では、年3回、32町内すべての見守りボランティアが一堂に会する「ふれあいネットワーク推進会議」を開催しています。

これまでの会議では、見守りマップの更新や民生委員と町内会長の連携方法の共有、自主防災会と協働した災害図上訓練等、趣向を凝らしたさまざまな研修を実施してきました。

令和6年7月6日の会議では、「見守り・声かけ・つなぐ」というふれあいネットワーク活動の基本を再確認しながら、グループに分かれて校区で実際に発生した事例の検討会を行ないました。緊急時に対応した当事者の話を聞き、意見交換することで、さらなるステップアップにつながったようです。

